

# **市民との意見交換会**

## **報 告 書**

**坂戸市議会広報委員会**

# 市民との意見交換会

1. 開 会                      司会者：野沢 聖子 広報委員会委員長
2. 挨 拶                      市議会副議長（オブザーバー）  
坂戸市区長会会長
3. 自己紹介
4. 意見交換（90分）
5. 閉 会                      市議会副議長（オブザーバー）

## 市民との意見交換会 実施記録

○実施日時 令和7年11月6日（木）  
午後3時～4時30分

○会 場 入西地域交流センター 多目的室

○参 加 者

（１）議 員 8名（広報委員会）

野沢 聖子 委員長、大山 嘉代子 副委員長、小澤 弘 委員、中村 拓史 委員、  
吉原 正洋 委員、波多野 功和 委員、鎢木 幸代 委員、中島 浩喜 委員

（２）オブザーバー

柴田 文子 副議長

（３）区 長 9名

坂戸市区長会理事23名を対象とし、うち9名が参加した。

○テ ー マ 「住みつづけたいまちづくり」

○主な意見 資料1のとおり

○アンケート調査結果 資料2のとおり

## 主な意見

### 1 現状と課題

#### ○少子化・人口減少と地域のつながりの希薄化について

- ・少子化が進み、祭りなどの地域行事の開催が困難になり、地域全体の活気が薄れている。
- ・未婚化の進行や相続問題も増え、地域内の支え合いが希薄化する傾向にある。

#### ○外国人住民との共生の課題について

- ・外国人住民が増加する中で、日常生活においてごみ出しや騒音等の様々な問題が増加することが懸念される。
- ・未婚化が進む一方で、外国人住民の人口増加は続いており、日本人住民との婚姻の増加が予想されるが、文化や慣習の違いにより生じる課題も多く、相互理解に向けた支援体制の構築が課題となる。

#### ○中心市街地の変化と空洞化について

- ・北坂戸駅周辺及び坂戸駅周辺地域の事業者の撤退などにより、交流機能の減退が懸念され、新たな賑わい拠点づくりによる交流の場の再構築が課題となる。
- ・若い世代が市外へ流出し、地域の担い手不足が懸念される。

#### ○民生委員について

- ・民生委員の意義や役割を勘違いして粗悪な対応をする住民がいたり、個人情報への取扱いに苦慮する場合もあり、民生委員のなり手不足が懸念される。

#### ○ごみ集積所について

- ・将来的に家が増えてもごみ集積所が近くになれば転入者の増加は見込めないため、ごみ集積所を新しく設置しようとする際の市の支援が課題である。
- ・自治会未加入者が自治会が管理するごみ集積所に捨てることを問題とする場合があり、対応が課題である。

#### ○広報紙の配布について

- ・「広報さかど」、「さかど市議会だより」等の配布を自治会の高齢者が行う場合に負担が大きいため、市が一括して外部に業務委託して配布するなど配布方法の検討が課題である。

### ○坂戸市の知名度の低迷について

- ・坂戸市の知名度が低く、外部への情報発信が不足しているため、「坂戸市に住むことの良さ」を内外に効果的に伝える戦略的発信が課題である。

## 2 坂戸市の魅力と可能性

### ○自然と共生するまち

- ・豊かな自然が坂戸市の魅力である。

### ○豊かな教育と文化のまち

- ・豊かさとは、「お金ではなく文化」であると考えている。坂戸市の豊かな文化を通して「人とのつながり」を重視するまちづくりに期待する。
- ・高齢者・外国人を含めた多世代交流事業が展開され、困ったときに助け合える関係性が醸成されてきているが、これからも「教え合い」、「支え合い」の地域文化の形成が望まれる。

### ○交通の便の良さと暮らしやすいまち

- ・インターチェンジもできて交通の利便性が向上していることは坂戸市の一つの魅力である。
- ・東坂戸団地は、スーパーや飲食店等の商業施設や病院等がコンパクトにまとまっており便利で暮らしやすい。
- ・自然・都市機能のバランスが取れ、落ち着いた生活環境が魅力である。

## 3 今後に向けた提案

### ○空き地・空き家対策について

- ・雑草・枯れ草による景観悪化、火災・防犯上のリスクがあるため、空き地・空き家を活用し、学生や地域団体と連携した事業の展開を検討し、多目的に利用できる仕組みを整備する必要がある。
- ・空き家を地域活動・創業支援・文化イベントの拠点として利活用していただきたい。
- ・空き家を利用して「交流スペース」を各地区に整備することで、孤立防止と地域力強化を図ることができるのではないかと思う。

### ○地域交通と買物の利便性向上について

- ・駅前の商業機能低下に伴い、高齢者世帯等に不便が生じている。商業施設へのアクセスを容易にするため、コミュニティバスや移動販売車の活用をさらに推進する必要があるのではないか。
- ・地元商店街・農産物直売所・マルシェ等と連携し、地産地消型の経済循環を進めるべきである。
- ・坂戸市も「道の駅」を作ることによって、坂戸市の様々な魅力を多くの人々に知っていただけたと思う。

## ○公共施設・道路・公園の整備について

- ・公園のトイレや遊具が老朽化したり、樹木などの伐採が必要な場合があるため、再整備を進め、日常の交流拠点として子どもから高齢者まで快適に利用できるよう改修していただきたい。
- ・道路の修繕について、必要に応じて迅速に行っていただきたい。

## ○坂戸市の魅力を発信する方法について

- ・「坂戸市の四季」をテーマに、市民や学生によるビデオ制作・写真展など、市制施行 50 周年記念事業と連携した発信が効果的であると思う。
- ・地域団体や高校の放送部等とも連携し、坂戸市の魅力を紹介する映像制作や SNS を活用した発信などを進め、若者の視点も取り入れながら情報発信を進めるべきではないか。
- ・北浅羽の桜堤公園がテレビなど大手メディアに放映されてから大変賑わうようになった。市の魅力発信には坂戸市役所の既存の広報媒体に加えて、大手メディアの協力も必要になってくると思う。
- ・「さかど市議会だより」の表紙はカラーだが、中身は白黒で暗く映ってしまうことが残念である。今後は議員の顔写真を含めてカラーにして明るく発信していただきたい。
- ・「さかど市議会だより」の文章が長すぎるため、要点をまとめて簡潔に読みやすくしていただきたい。

## ○自然を生かしたイベントの開催について

- ・河川・公園などの環境を生かしたウォーキングイベントや交流行事の開催を通じて、市民の健康づくりや地域における交流を促していただきたい。

## ○地域団体を拠点とした交流の増進について

- ・地域団体の活動内容を可視化し、交流のきっかけを増やす仕組みも有効であると考え。

## ○多文化共生の推進について

- ・外国人住民向けの防災関連情報・ごみ分別等の日常生活上のルールに関する多言語パンフレットの作成が必要ではないか。
- ・地域の日本語教室や文化交流イベントの開催が重要である。

## ○安心・安全のまちづくりについて

- ・防災意識の向上に向けた取組や、防犯灯の充実が求められると思う。
- ・子どもから高齢者、そして外国人に至るまで誰もが安心して安全に暮らせる地域支援体制の強化に取り組んでいただきたい。

## 4 ま と め

坂戸市は、豊かな自然環境と交通の利便性の高さ、人の温かさと支え合いの文化等の多様な魅力を兼ね備えたまちである。一方で、今回の意見交換会を通じて、人口減少、少子高齢化、都市の空洞化、世代間の分断、そして外国人との共生の課題等も浮き彫りになっている。これからの坂戸市には、人が集い、お互いに支え合い、坂戸の多様な魅力を共に育てていくまちづくりが求められる。市民一人ひとりの参加と、行政・学校・地域団体との協働により、坂戸らしい温かさと誇りを未来へつなげていくことが期待される。

## 「市民との意見交換会」のアンケート調査結果について

令和7年11月6日に入西地域交流センターの多目的室で開催された「市民との意見交換会」において、参加者に対して行ったアンケート調査の集計結果については、下記のとおりです。

記

**1 参加者数 9人（うちアンケート回答者数9人、回答率は100%）**

### 2 アンケート調査集計結果

●意見交換会の参加対象者を絞らせていただいたことについて

（ア）良かった	（イ）悪かった	（ウ）どちらともいえない
8	0	1

●意見交換会のテーマについて

（ア）良かった	（イ）悪かった	（ウ）どちらともいえない
8	0	1

●意見交換会全体の内容について

（ア）良かった	（イ）悪かった	（ウ）どちらともいえない
9	0	0

●意見交換会の時間について

（ア）ちょうど良かった	（イ）長かった	（ウ）短かった
7	0	2

※休憩を挟んだ上で、より長時間での実施を希望する。

### 3 その他、ご意見・感想など

- ・直接市議会議員と意見交換できる機会は有意義なものである。
- ・定期的に開催していただきたい。
- ・毎年開催していただきたい。
- ・住みやすいまちをつくっていただきたい。
- ・参考となる意見が多かった。